

聖書の神学

旧新約聖書は、周辺世界の宗教・思想・文化などとの交流の中で多様な神学を展開している。

この講義では、神、創造、人間、罪、救済、復活、信仰、希望、愛、終末など、旧新約聖書の中の多様な神学的思考について理解を深めるために、旧新約聖書の中の各文書の成立にかかわった人々や各文書の中に言及されている人々の歴史をたどりながら、これらの神学的な主題がどのように多様な仕方で展開されているかを明らかにしていくことにしたい。

最初に聖書神学の研究の歴史と現在を概観し、聖書神学の方法と課題について述べる。

つぎに聖書の中から代表的なテキストを選び、神理解、創造思想、人間理解、救済思想、復活信仰、倫理、終末論などについて、電子化された聖書テキストのキーワード検索をおこないながら考察をすすめることにしたい。

授業計画

- 1回目 聖書神学とは何か
- 2回目 聖書神学の研究史
- 3回目 聖書神学の方法と課題
- 4回目 神理解1
- 5回目 神理解2
- 6回目 創造思想1
- 7回目 創造思想2
- 8回目 人間理解1
- 9回目 人間理解2
- 10回目 救済思想(1-3)
- 11回目 復活信仰
- 12回目 終末と倫理
- 13回目 まとめ

聖書神学とは何か。

●聖書とは。

「聖」なる書としての性格。「神の言葉」。旧約聖書。新約聖書。外典と偽典。

歴史的文「書」としての性格。周辺世界の諸資料。

「聖」と「書」の関係：

Karl Barth, Der Roemerbrief, 2.Aufl. 1919 (Vorwort [→日本語訳](#))

●神学とは。

Theos+Logos。信仰+理性 教義学(信仰、教会)。

他の学問領域との関係：学際性

例：歴史と神学。宗教史と神学。宗教学と神学。文学と神学。文化と神学。

●聖書神学とは。

聖書に即した神学。聖書の中に展開されている神学。

●狭義の「聖書神学」：旧約と新約の関係。

予型論。預言と成就。神の経綸 (Providence)

文献

重要文献:

H.-J.Kraus, Die Biblische Theologie. Ihre Geschichte und Problematik, Neukirchen-Vluyn, 1970

G.Ebeling, The Meaning of >Biblical Theology<, JThS VI, 1955, 21-225= ders., Was heisst >Biblische Theologie<?, in: ders., Wort und Glaube, 1967 3.Aufl., 69-89.)

最近の論議: P. Stuhlmacher, U. Luz, G. Strecker, E. Graesser, H.H. Schmid, H. Raesaenen, H. Huebner, G. Barth, O. Merk, B.S. Childs, H. Schlier, **などの論議の紹介**→川村輝典「聖書神学と教義学 ——全聖書的神学との関連で」(『新約学研究』2001年第29号 37-50頁)